

おすすめ本を しょうかい ズ紹介します



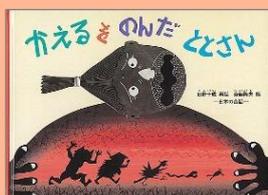
2025

2

月号

1〜2年生くらいから

おもわずわらってしまう
せつぶんのえほん



おなかのいたいととさん。おしょうさまにそうだんすると、かえるをのむといいという。つぎからつぎへといろいろなものをのみこんでいき、さいごにのみこんだのは？

『かえるをのんだととさん』
日野 十成 再話 斎藤 隆夫 絵 福音館書店

びょうきになって
はじめてわかること



びょうきになったおとうとがやさしくされているのを見て、じぶんもびょうきになりたいな、とおもったあたし。けれど、ほんとうにびょうきになってみると…。

『あたしもびょうきになりたいな!』
フランツ=ブランデンバルク さく アリキ=ブランデンバルク えふくもと ゆみこ やく 偕成社

3〜4年生くらいから

かしこいウサギ



地上に火がなかったころ、動物たちは冬の寒さにふるえていた。そこで、ウサギは森のなかまたちと相談して天の人から火をぬすむことにした。

『天の火をぬすんだウサギ』
ジョアンナ トゥロートン さく 山口 文生 やく 評論社

あたまをつかった
ゆかいな暮らし

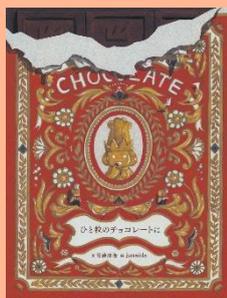


黄色の家に住むかしこい小さなおばあさん。エプロンが短かったら上を切って下にぬいつけてかいつ! あれ? 上が短いぞ。くすりと笑えるシリーズ。

『あたまをつかった小さなおばあさん』
ホープ ニューウェル 作 松岡 享子 訳 山脇 百合子 画 福音館書店

5〜6年生くらいから

おいしいチョコレート
ができるまで



2月といえば、バレンタインデーにもらったり、あげたりするあま〜いチョコレート。でも、どうやってできているか知ってる? 思わず食べたくなる本の表紙にも注目!

『ひと粒のチョコレートに』
佐藤 清隆 文 junaida 絵 福音館書店

江戸時代の仕事場



大工さんが建てた家にピッタリ合うような戸や家具を作るのが「建具職人」。不器用な千太郎は、立派な職人になれるかな?

『建具職人の千太郎』
岩崎 京子/作 田代 三善/絵 くもん出版

